

経済連携協定（EPA）介護福祉士候補者に配慮した国家試験のあり方に関する検討会
発表資料

社会福祉法人 不二健育会
特別養護老人ホーム ケアポート板橋

1.合格に向けた学習方法・施設の学習支援について

ケアポート板橋では学習支援として原則週に1日8時間の勉強時間を提供しております。勉強は介護福祉士養成校で教員経験のある職員が、日本語教育から国家試験に必要な基礎知識や試験対策まで一貫して指導をしています。試験直前期の12月からフロア業務から離れ、勉強に集中できる環境づくり、模擬試験などを集中的に受ける事で実践的な学力をつけていきました。

2.試験問題についての改善したい点

振り仮名や英語併記については今回の試験で行われていたくらいが適切ではないかと考えております。ある程度日本語の能力を習得している候補者にとっては、あまり振り仮名が多すぎるとかえって読みにくいものになってしまうようです。

3.さらなる工夫した方が良い事はあるか

看護師のように受験回数を増やすことはできないでしょうか。

4.全ての漢字に振り仮名を振る事について

前述したとおり、かえってマイナスになる事を危惧しています。日本人が振り仮名のついている文章を読みにくいと感じる様に、国家試験を受けるレベルにある候補者にとって、過剰な振り仮名はむしろ読みにくいだけで意味がないと考えます。日本で働くうえで日本語は必要不可欠のものであり、必要以上に手心を加える事が良い事とは思えません。

5.試験時間の延長について

候補者にとって大変なのは時間内に問題を解く事であることを考慮するならば、時間の延長は効果的とは思いますが、あまり一般受験者と区別した対応を取る事は公平性といった点でふさわしくないのではないのでしょうか。

6.母国語での試験について

日本で仕事をしていく事を目標にするならば、あまり意味がないのではないかと考えています。実際の現場では様々な記録や文章の作成を求められることになり、日本語から逃れる事はできません。国家試験で使用されている日本語は現場で使用される最低限の用語が

網羅されていると思われ、これらが理解できていなければ仮に母国語で試験をして受かったところで、戦力として期待できる仕事を現場でする事は難しいのではないのでしょうか。

合格者が少ないのは試験自体だけではなく、支援体制の不備があるように思います。日常的に学習支援を行っている施設への財政的な面も含んだ積極的な援助を行う方が合格者は多くなるのではないかと考えます。

むやみにハードルを下げると候補者の質や資格への信頼性が低下する恐れがあります。現場の状況を把握した上で適切な試験を設定していただく事を希望します。